

熊薬創立125周年記念事業 知の創造、薬学の未来を切り拓く新たな一歩を



(上) 建学記念碑除幕式であいさつする高濱学部長
(中) 私立熊本薬学校設立趣意書の文言が刻まれた建学記念碑
(下) 谷口学長から「熊本大学名誉フェロー」称号が授与される甲斐原氏



記念事業の一環として発行された「熊薬ものがたり」。熊薬の歴史などが分かりやすく紹介されている



薬草園の美しい草花を紹介するポストカードも制作



世界へ羽ばたく、我らが“熊薬” 熱い思いを伝え、次世代へつなぐ

1885年に私立熊本薬学校として創設された熊本大学薬学部の創立125周年記念事業が、平成22年10月30日・31日の2日間にわたって開かれました。

薬学部キャンパスで行われた「熊薬創立125周年記念事業」第1部では、「熊薬研究助成会受賞者による熊薬若手シンポジウム」と宮本記念館前に建立された「建学記念碑」の除幕式。第2部では、「熊薬創立125周年記念講演会およびシンポジウム」を開催。

「建学記念碑」の除幕式では谷口功学長をはじめ、高濱和夫薬学部長、熊薬同窓会会長・田代昭氏、卒業生代表・中武成信氏、学生代表・藤田一成さんが除幕を行い、多くの人々の拍手に包まれました。

また、第2部「熊薬創立125周年記念講演会およびシンポジウム」の特別講演は、本学OBでもある熊本保健科学大学の赤池紀生教授による「サイエンスの発展と技術一人へのメッセージを込めて」。自身の留学経験からパッチクランプ法(※)の開発に至るまで、若者たちに語りかけるように講演。メモを取る学生たちの姿も多く見られました。

当日は、「熊薬創立125周年記念大薬学展」と題し、薬草園を一般公開しました。“熊薬”の創始にあたる肥後藩主・細川重賢が開設した薬園「蕃滋園(ばんじえん)」の流れをくむ

伝統ある薬草園を、多くの市民が楽しみました。

31日には、熊本ホテルキャッスルで記念式典と祝賀会。記念式典では、日本薬学会会頭・松木則夫氏、日本薬剤師会会長・児玉孝氏などの来賓、卒業生や学生ら約400名が出席して盛大にとり行われました。

また、優秀な学生の育成に役立ててほしいと10年間で総額3,600万円を熊本大学基金に寄附された甲斐原守夫氏に「熊本大学名誉フェロー」称号を授与。「熊薬創立125周年記念甲斐原守夫奨学金」として23年度から交付される予定です。

祝賀会では、熊本県、熊本市をはじめ、東京大学薬学部長・長野哲雄氏が祝辞を述べ、本学名誉教授・一番ヶ瀬尚氏の音頭で乾杯、懇談しました。

※微細電極を顕微鏡下で細胞などに貼り付け、電気的性質を調べることにより、細胞レベルでの生体試料の研究に多用される手法



世代を超え、親交を深めあう機会にもなった祝賀会

美術科の学生が地域貢献



芸術で街を元気に!

教育学部美術科の緒方信行准教授と25名の学生が、商店街や企業などによって組織されている「すぎたい熊本協議会」の依頼により、迫力満点の風神雷神の彫刻モニュメントを制作。九州新幹線全線開業を控えた熊本を芸術で盛り上げようと、平成22年10月に開催された「城下町くまもと銀杏祭」で披露されました。



俵屋宗達の「国宝・風神雷神図屏風」を参考にして、発泡スチロールを材料に造った、高さ2m以上、重さ約80kgのモニュメントです。制作に要した時間は1カ月半。彫刻教室を中心に美術科の1年生から大学院2年生までの学生が、夏休みを利用して制作しました。モニュメントは、珍しい座像の風神雷神。力強さを感じさせる一方で、ひょうきんな表情が印象的です。風神が持つ風袋の中には、「新幹線さくら」が潜んでいるという、ユニークなアイデアも。

発泡スチロールを材料にするのは、緒方准教授も初めてのことで、学生と共に試行錯誤を繰り返しながら、制作を進めました。普段の講義では、これほど大きなものや、学年を越えて作品制作をすることはありません。今回のモニュメント制作は、学生たちにとって、大切な経験の一つとなりました。現在は、また新たな作品制作が進んでおり、3月のお披露目が予定されています。



地域の宝を見つめ直す

菊池市四町分にある菅原神社の絵馬修復に、教育学部美術科の松永拓己准教授と8名の学生が取り組みました。菅原神社で平成22年10月に開催された、50年に一度の「遷宮祭」に合わせ絵馬を修復したいと、産業文化会館の壁画制作の実績がある松永准教授のもとに依頼があり、修復が実現。

古いもので120年も前に奉納されたという絵馬は、計8枚。大きいもので縦1.5m、横3mの大きさがあります。長い年月を過ごした絵馬は、もともと何が描いてあったのかさえもわからないほど傷んでいました。まずは、わずかに残っていた点と点を結んで、消えていた絵をよみがえらせることから作業を開始。次第に

絵がよみがえり、源平の戦いや日露戦争の情景が描かれた絵馬だということが分かってきました。また、地元の小学生や住民の方々と共に行ったことで、学生と地域の方々との交流も生まれました。

修復にかけた時間は、夏休み期間中の5日間。1日に10時間も作業に没頭することもありました。よみがえった絵馬は、菅原神社へ再び奉納され、地域の宝としてまた次の世代へと受け継がれていきます。



これらの学生の取り組みはWeb (<http://www.kumamoto-u.ac.jp/>)でもご紹介しています。